

Red HatでIBM Powerの可能性を切り拓く



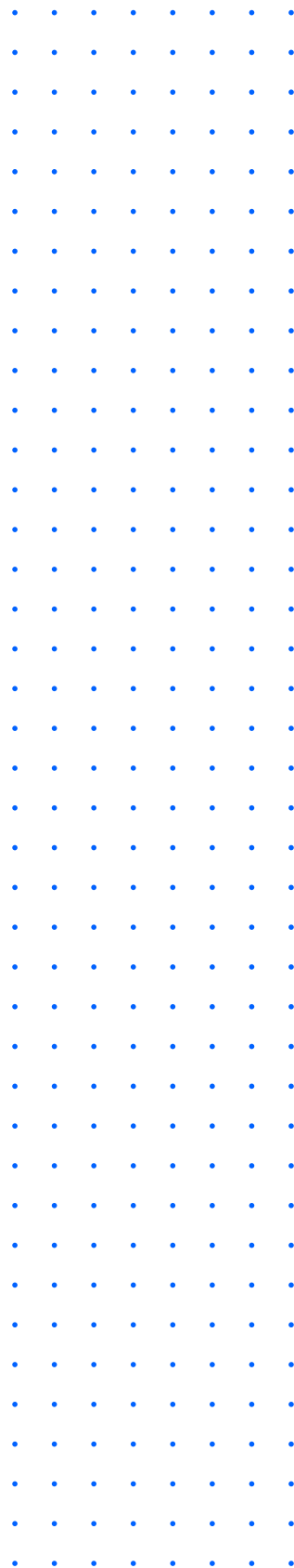
目次

3 はじめに

4 Red Hatで描く未来の姿

5 IBM with Red Hatで新たな可能性を再考する

6 まとめ



概要

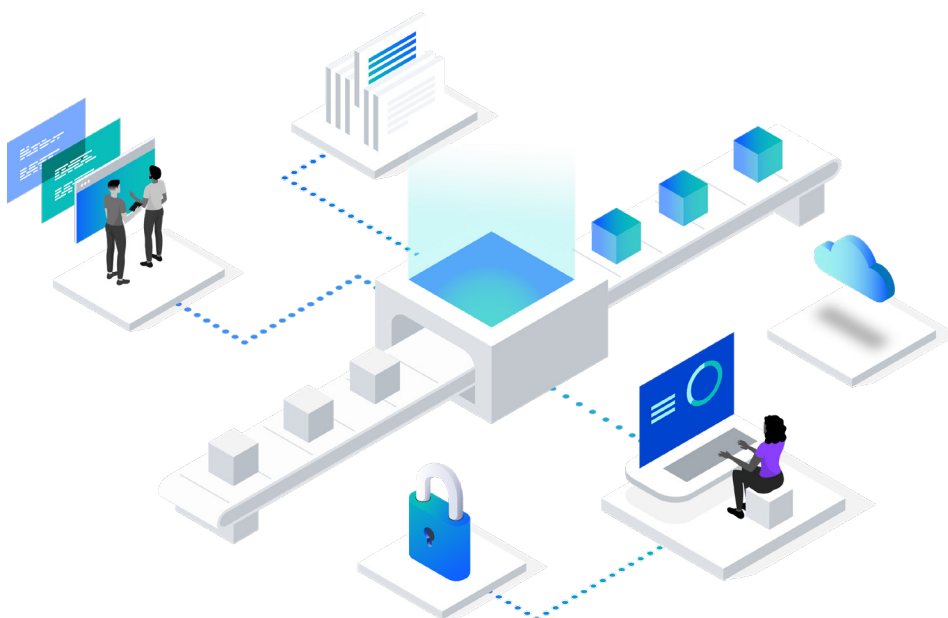
変化と不確実性が絶え間なく続く世界では、現在とすぐ先の未来が、まるで別世界に感じられることがあります。しかし、私たちが思っているより、未来は実は手が届きやすいものであることが多いです。デジタル・トランスフォーメーションを例に取ってみましょう。何年もの間、デジタル・トランスフォーメーションは、根本的で破壊的な変化をもたらすものと言われてきました。当然、プロセスや組織構造、そしてお客様との関係に対する考え方を変える必要があります。そしてもちろん、その基盤となるテクノロジーも全て、適応するように変更する必要があります。

しかし、IBM Powerのお客様であれば、既存のハードウェアを変更することなく、オープン・ハイブリッド・クラウドやコンテナ、Kubernetes、自動化などの次世代のテクノロジーを利用することができるようになります。すでにお持ちの IBM ハードウェア上で Red Hat のソフトウェアを実行することで、アプリケーションのモダナイズ、DevOps プロセスの自動化、オープン・ハイブリッド・クラウド戦略の採用が可能になります。

本当に意味があるトランスフォーメーションは、混乱をもたらしたり、基盤を丸ごと入れ替えたりするようなものではありません。むしろ、すでに機能している基盤を土台にして、論理的に進化させていくものです。IBM Powerサーバーほどハードに、そしてよく機能するものは、世界で他にありません。世界中の主要な企業は、IBM

Powerの信頼性やセキュリティ、パフォーマンスをベースにして、その成功を収めてきました。今後、オープン・ハイブリッド・クラウドの導入を検討していくうえで、これらの投資を無駄にする必要はありません。実際、ITリーダーの82%は、将来のミッション・クリティカルなワークロードをサポートする上で、自社のエンタープライズ・システムが果たす役割がますます重要になると考えています。¹

Red Hatのオープンソース・ソフトウェアは、ハードウェア・ソリューションやパブリッククラウド・インフラストラクチャーの幅広いエコシステムをサポートしており、皆さんの組織固有のニーズにも柔軟に対応できます。そしてRed Hatを活用すれば、世界をリードするエンタープライズ仕様のLinuxプラットフォームにアクセスできるようになります。Kubernetesやコンテナ、ハイブリッド・クラウドは、これからの未来のテクノロジーであり、IBM Power Systemsはその未来の一端を担っています。Red Hat OpenShift は、オープン・ハイブリッド・クラウド戦略のために構築されたエンタープライズ向け Kubernetes プラットフォームの代表格です。² IBM Power上で Red Hat OpenShiftを活用すれば、ハイブリッド・クラウド全体でクラウド・ネイティブなアプリケーションを構築、およびデプロイするために必要な一貫性を、開発者にもたらすことができ、アプリケーションのモダナイゼーションを加速させることができます



Red Hatで描く未来の姿

業界全体でITリーダーは皆、次に上げるような多くのチャレンジに直面しています。クラウドの効率を上げてコスト削減するために、アプリケーションをモダナイズすること。また、ハイブリッド・クラウドのアプローチで、単一ベンダーや単一のクラウドサービス基盤に縛られることを防ぐこと。また、より自動化を進めることで、アジリティ(敏捷性)を向上し、組織全体で「顧客中心」のイニシアチブに集中できるように支援すること。そして、これらの投資から得られる価値を最大化することです。

どんなIT課題に直面していても、Red Hatには解決策があります。全ては、エンタープライズ仕様にベスト・チューニングされたオペレーティング・システムのRed Hat Enterprise Linuxから始まります。現在、Red Hat Enterprise Linux は、Fortune 500 企業の 90% 以上の企業に愛用されており³、イノベーションやセキュリティ、信頼性、オープン性を重視する企業に最適なOSです。Red Hat Enterprise Linuxはオープンソースなので、IBM Power 上でも全く問題なく稼働できます。

コンテナやKubernetes、ハイブリッド・クラウド環境の活用が増えてきている今、Red Hatの価値はますます高まっています。Red Hat OpenShiftは、業界で最も広く導入されているマルチクラウド・コンテナプラットフォームです。オープンソースのKubernetesに、エンタープライズ仕様に欠かせないセキュリティや開発者向けツールを追加しています。Red Hat OpenShiftを使用すると、あらゆるIT環境をまたがって、コンテナ化したアプリケーションをデプロイできるようになります。IBM CloudやAWS、Azure、Google Cloud、またはプライベートクラウド環境のベアメタルPowerサーバーなど、どこで実行しても一貫したエクスペリエンスを提供できるようになります。

OpenShiftで
どんなことができますか？

29%

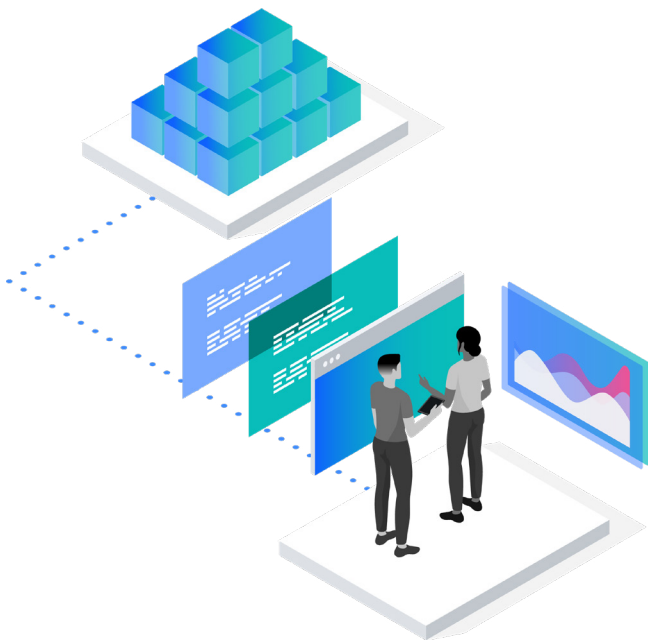
迅速なアプリケーション開発³

2100万ドル

年間収益の増加³

636%

5年間でのROI³



Red Hat OpenShiftを使用して、単一クラウドの利用から、ハイブリッド・クラウドの利用に移行することは、財務上および運用上にメリットをもたらします。独自調査によると、Red Hat OpenShiftは開発ライフサイクルを29%短縮し、年間収益を2162万ドル増加させ、5年間で636%の投資収益率(ROI)を実現できることが判明しました。⁴ そして、現在すでにお持ちのIBM Power上でRed Hat OpenShiftを稼働させることで、それらのメリットをすべて実現することができます。

Red Hat Ansible Automation Platformは、アプリケーション開発の拡大や、イノベーション推進を支援するための、強力な自動化ツールです。モダナイゼーションを完遂するうえで必要です。Ansible Automation Platformを使用すると、IBM Powerを含む無数のハードウェア・プラットフォームで、アプリケーションとワークロードを自動化できるようになります。また、オープンソース・コミュニティであらかじめ構築されたコンテンツも利用できるため、既存のIBMハードウェア上でタスクの自動化をすぐに開始できます。

IBM with Red Hatで 新たな可能性を再考する

セキュリティや信頼性、パフォーマンス、スケーラビリティは、もともと皆さんがIBM Powerに投資した時の理由でしょう。これは将来にわたって継続して守り続けるべき不変なものです。アプリケーションをモダナイズし、オープン・ハイブリッド・クラウドの未来を受け入れれば、皆さんが愛用されている既存のIBMインフラストラクチャーはそのままに、それらの強みをますます活かせるようになります。これは、皆さんがすでにこれまで行った投資を無駄にしないだけでなく、皆さんは、皆さんの時間とエネルギーを、すでに将来のイノベーションに向けて、投資し始めているということの意味です。追加スキルやプロセスを必要とする新しいプラットフォームにアプリケーションを移行しても、カスタマーサービスの向上にはつながりません。その資金とエネルギーは、お客さま向けのより良質なアプリ構築に投資する方がいいでしょう。

IBM Power上にRed Hatソリューションをデプロイすることは、アプリケーションを安全でインテリジェントにモダナイズする方法です。例えば、Power Systems上で稼働している IBM AIX®および IBM i™アプリケーションは、Red Hat OpenShift上に簡単に移植できます。また、IBM Powerサーバーは、今後も賢い投資先であることに変わりはありません。IBMが実施したサイドバイサイドのパフォーマンステストでは、Red Hat OpenShiftとMongoDBでコンテナ化したワークロードを実行する際、同等のIntel Xeon® SPベースの2ソケットサーバーと比べて、Powerサーバーの方が価格パフォーマンスにおいて、2.6倍優れていることを実証しました。

銀行業界ほど、投資を最大化することの重要性を理解している業界はないでしょう。多くの銀行はこれまでずっと、IBM Powerと、その伝説的なセキュリティや信頼性を最も強力に支持してきました。しかし銀行業界は今、ミレニアル世代の金融ニーズの変化に対応するため、バンキング・アプリケーションをモダナイズし、顧客に応じてエクスペリエンスをカスタマイズするという大きなプレッシャーにさらされています。

IBM Power with Red Hatで切り拓ける可能性について、3つの銀行業務のユースケースを見てみましょう。



オープン・バンキング

あるオーストラリアの銀行は、同国の新しいオープン・バンキング規制を満たすために、中核となる決済処理用のアプリケーションを創り替えることができました。活用したソリューション IBM Power 上に構築されたプライベート・クラウド環境上で、Red Hat OpenShift を稼働させました。アプリケーションをどこでも実行でき、クラウド・データベースにシームレスに接続可能になったことで、複数の金融機関にまたがる資金移動ができるようになりました。



デジタル・バンキング

デジタル・バンキングが業界が目指すべき未来のかたちだと証明するために、モバイル・アクセスの力を活用し爆発的に顧客を増やした、あるアフリカの銀行の事例を見てみましょう。同銀行はモバイル・アプリをコンテナ・ベースのマイクロサービスとして運用しています。そのためどこでも実行可能で、また同社の「IBM Power」ベースのプライベート・クラウド上にあるミッション・クリティカルなバンキング・アプリに接続したりもできます。



プライシングとリスク分析

ミレニアル世代は、迅速なサービスとパーソナライズされた体験を求めています。ある消費者金融サービス企業は、「IBM Power」に「Red Hat OpenShift」を導入し、そのうえで稼働するコンテナ・ベースのマイクロサービスを顧客に提供しています。

これらの事例は、Red Hatのソリューションが既存のハードウェアへの投資を無駄にすることなくデジタル・トランスフォーメーションを実現している、ほんの一例に過ぎません。オープン・ハイブリッド・クラウド環境は、企業に多くのメリットをもたらします。それは、人工知能 (AI) や機械学習の知見を、ビジネスやカスタマー・エクスペリエンスの向上に活用できるようにし、パートナー・エコシステムをセキュアでコンプライアンスに準拠した形で拡大できるようにします。

まとめ

世界は近年、レジリエンス(逆境や困難に遭遇してもうまく乗り越えていく力)の重要性について多くを学びました。ITの世界において、オープン・ハイブリッド・クラウドは、そのレジリエンスをまさに象徴するものです。オープン・ハイブリッド・クラウドで、単一のモノに将来を縛りつけられず、あらゆる将来の可能性を切り拓けるように備えていきましょう。また、レジリエンスを手に入れる際に、常に大きな変化を起こす必要はありません。今すでに手元にあるものを最大限に活用すればいい場合もあります。皆さんは、IBM PowerにこれらのRed Hatソリューションをデプロイすることで、オープン・ハイブリッド・クラウドの強力な基盤を手に入れることができます。

これからは、一人一人の顧客にますます注力し、記憶に残るカスタマー・エクスペリエンスを創造していくことが重要になっています。そのためには、オープン・ハイブリッド・クラウドを導入して、自動化や人工知能 (AI)、そしてそれらがもたらすオープン性やイノベーションを活用することで、生産性やパーソナライゼーションを改善していくことが必要です。IBMとRed Hatを活用すれば、これまでの皆さんのインフラ投資が、まさにハイブリッド・クラウド・コンピューティングへの進化につながっていくことをお約束します。

出典:

1. Forrester, "Successful Enterprise Application Modernization Requires Hybrid Cloud Infrastructure," June 2021.
2. The Forrester Wave™: Multicloud Container Development Platforms, Q3 2020.
3. IDC, "Worldwide Server Operating Environments Market Shares, 2019: Overall Server Operating Environment Market Grows During the Year, Led by Linux-Based Shipments and Deployments," July 2020.
4. IDC, "The Business Value of Red Hat OpenShift," March 2021, (<https://www.redhat.com/rhdc/managed-files/cl-idc-infographic-business-value-of-openshift-analyst-material-f27926-202103-en.pdf>).

© Copyright IBM Corporation 2021

〒103-8510
日本アイ・ビー・エム株式会社
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

Produced in the United States of America
October 2021
All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、米国またはその他の国における International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。他の製品名およびサービス名等は、各社の商標またはサービスマークである場合があります。

本書に記載の製品、プログラム、またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。



Please Recycle